

古代出雲へのいざないへようこそ

島根県立古代出雲博物館は、島根県の出雲地方を中心とした歴史的資料を保存・展示しています。「神々の国」と呼ばれる出雲は、現在の島根県を構成する3つの旧国のうちの1つです。出雲は、日本の初期に書かれた年代記にも登場しており、日本の神話や初期の政治史において重要な意味を持っています。

3つのテーマ別展示では、古代出雲の精神的な伝統や文化を紹介しています。最初の展示では、博物館のすぐ西にある出雲大社に焦点を当てています。伊勢神宮と並ぶ出雲大社は、日本で最も有名な2つの神社の1つです。初期の本殿の高さは48メートルあったと言われており、展示されているさまざまな模型は、建築家がこの構造の外観を再構築しようとしたことを表しています。2つ目のテーマ展示では、8世紀に書かれた『出雲国風土記』をもとに、古代出雲の日常生活を再現しています。3つ目の展示は、弥生時代（紀元前800年～西暦300年）の銅剣や銅鐸の膨大な資料です。出雲地方の二つの遺跡から出土したもので、その多くは国宝に指定されています。

当館は、島根県の歴史と文化に焦点を当てた一般展示を行っています。先史時代から近代まで、出雲地方独特の古墳、たたら製鉄の発展、相撲の神話の起源における古代出雲の役割など、幅広いテーマ展示を行っています。

「出雲神話回廊（神話シアター）」では出雲の神話を学ぶことができ、神話シアターでは1日4本の短編動画が順番に上映されています。動画の内容を英語で解説する電子機器も用意されています。

館内1階には、インフォメーションセンター、レクチャーホール、ミュージアムショップ、コインロッカー、車椅子用トイレがあります。また、2階には軽食やドリンクを提供するカフェ、3階には北山山系を望む展望テラスがあります。